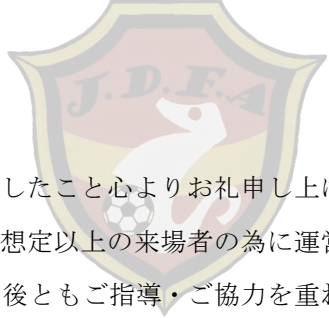


【 第1回JDFFAフェスティバル2015 】



2月28日（土）-3月1日（日）記念すべき第1回JDFFAフェスティバル2015が皆様のご協力で無事開催できましたこと心よりお礼申し上げます。子どもから大人までと幅広い年齢の方々にご来場があり、デフサッカーを知って頂きましたが、うれしいことに想定以上の来場者の為に運営不備がありましたこととお詫び申し上げます。また、来年は今回よりもよりよいフェスティバルにしていきたいので今後ともご指導・ご協力を重ねてお願い申し上げます。さて、今回の合宿においては運営全体に携わる時間が長く、選手の横にいる時間がいつもの合宿より少なかったのですが、試合の合間の休憩時間や食事の時間などいつも以上に自然と選手に目がいていました。鈴木トレーナーから代表全選手に家でできる練習メニューを配布してもらっており、トレーナーの視点からの評価をもらったところ、効果が特にでてきていると感じたのは「古島」「竹内」で、この2人は身体が安定した状態でプレーができていました。ただ、効果があまり見られないという報告を受けた選手が数名おりとても残念でした。トレーニングの効果がすぐにでる選手と時間がかかる選手と個人差はありますので地道に続けることが大切です。なぜこのような宿題をだしているかといえますと、大会経験を通じてアジア及び世界との差にはフィジカルに差があるということを感じたからです。この課題をクリアするためには、器具を使ったトレーニングも必要となってきますし、何よりも継続的なトレーニングが必要になります。仕事や学校で忙しい日々をお過ごしなのは、良く理解しています。しかし、本気でアジア及び世界で一番になろうと思ったら何かを我慢・犠牲にして、そのための時間を作らなければなりません。その覚悟が代表選手に求められます。何事も中途半端にやると愚痴や言い訳が出てしまいますが、信念を持って取り組めばいろんな知恵が出てくる訳ですから工夫しながら日々を大事にしてください。今回は、試合のポジションは自分の得意（希望）なところを選手で決めてもらいました。見ていて感じたのは、次があると思ってプレーしている選手がいたのではないかということです。その試合がダメでも、次があるということを口にします。もちろん、気持ちを切り替えてプレーすることは大切ですが、代表である限りミスはその場で修正することが必要と考えます。その試合でやりきれなければ、本当に悔しいですし、なぜチームが機能しなかったかをずっと考えてしまいます。前回に比べて特に成長を感じた選手「古島」は自分の得意なプレーのイメージを明確に持ちストロングポイントを伸ばせていましたし、「吉野」は苦手なプレーを減らして自分のできることを増やしていました。一番違いを感じたのは「綿貫」で、状況判断の面のレベルアップをすごく感じました。次の合宿や大会で「竹内」と「綿貫」のようなアジアを代表する選手に一人でも多く出会えるのを期待しています。